

# CADCity Ver.12.00 機能アップマニュアル

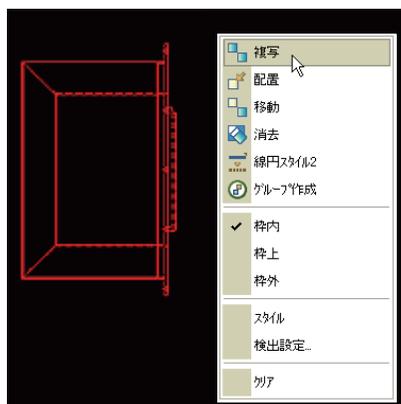
## 1 - 1

## ニュートラルモードの編集コマンド起動

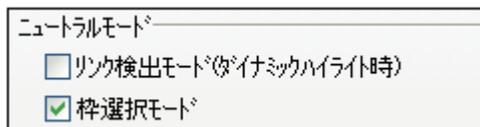
要素を選択し、複写、配置、移動、削除、線円スタイル、グループ作成のコマンドを直ちに実行できる機能です。

ニュートラルモードの編集コマンド起動とは、コマンドが何も選択されていない状態（ニュートラル）の時、要素を枠選択または単一選択することができ、選択した要素を、マウス右ボタンにより表示されるポップアップメニューの編集コマンドを直ちに実行できる機能です。

通常は、目的の編集コマンドを選択してから要素の選択となりますが、コマンドが何も選択されていないニュートラル状態の時は、要素選択から編集コマンドを指定できます。



ニュートラルモードのオンオフ設定は、[補助 - システム設定 - 検出 ニュートラルモード] の【枠選択モード】で行います。



## 1 - 2

## 作図ナビ

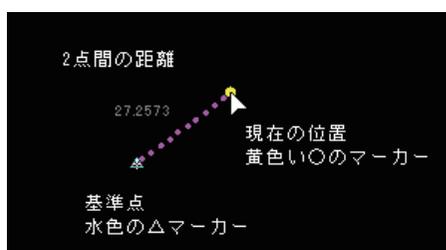
作図ナビとは、マウスカーソルにより目的とする図形を素早く作図するための支援機能をいいます。

作図ナビとは、マウスカーソルにより目的とする図形を素早く作図するための支援機能をいいます。マウスによる基準点の検出、仮想補助線の表示、作図グリッドによる区切りのいい数値での移動など、作図ナビを使用すると、マウスのみで目的の図形を素早く作図することができます。



ツールバーからオンオフ

キーボードからは SHIFT + SPACE



作図ナビの基本は、線分コマンドのように基準点と現在のマウスカーソルの位置までを補助線で表示します。この時、XYの距離を参考値として表示します。

\* 基準点は決定されている必要はありません。検出点にマウスがしばらく滞留すると、そこが自動的に基準点に指定されます。

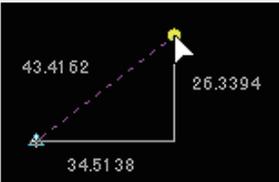
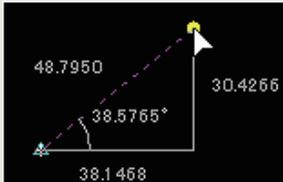


マウスが基準点から、XY方向に動くと上下左右にある特異点（端交点、円/円弧の中心点と90度点）を自動的に検出し、そこから第二補助線を表示します。

\* 特異点の検出は、ウィンドウ内に表示されている範囲に限定されます。

作図ナビの表示形式を[補助/システム設定/検出/作図ナビ]で指定できます。  
初期値はXYのみオンです。

表示形式	
<input type="checkbox"/> 角度	<input checked="" type="checkbox"/> X・Y
<input type="checkbox"/> ガイドチップ表示	

角度オン	XYオン	角度・XYオン
		

角度オフ、XY オフの場合、2点間の距離だけを表示します。



CTRL + マウス右 ↓(下向き方向キー)	現在の位置に強制的に基準点を指定
SHIFT + スペース	作図ナビオンオフの切り替え
→ (右向き方向キー)	グリッドのオンオフを切り替える
← (左向き方向キー)	補助線を無限延長線で表示
数値 + 方向キー	現在の基準点から数値分基準点を移動。基準点が端点にある場合は、基準点固定モードのみ有効
. (ピリオド)	基準点を確定

## 1 - 3

## 表示高速化

本バージョンより、高速表示モードを実装しました。

本バージョンより、高速表示モードを実装しました。  
従来モードとは、[ 補助 / システム設定 / 表示 ] で切り替えます。

表示速度優先       省メモリ優先

表示速度（基準表示と拡大表示）に関する設定です。

#### 表示速度優先

要素数の多い図面では、[ 省メモリ優先 ] モードの 2～5 倍の高速表示（パソコンの環境により異なる）を実現します。本システムの初期値です。より多くのメモリを使用しますので、お使いのパソコンに 1GB 以上の搭載メモリがある環境での利用をお勧めします。

表示速度優先モードは、より表示を高速化するため従来版とは別の表示ルーチンを採用しています。このため、線種や線同士の接合部など省メモリ優先モードとは見え方が異なる場合があります。出図すると同じです。

SXF 表示モードは、未対応です。

#### 省メモリ優先

従来型（Ver. 11.5 以前）の表示モードです。

[ 表示速度優先 ] よりも表示速度は劣りますが、少ない搭載メモリを有効的に利用し、安定した表示を行います。

## 2 - 1

## MCAD 入力

一括変換ダイアログボックスを一新しました。

[ ファイル / 外部入力 / MCAD 入力 ]

一括変換ダイアログボックスを一新しました。Windows エクスプローラの操作方法に準拠した他、便利な機能が追加されています。変換する MCAD ファイルの保存場所を指定します。ネットワークドライブの指定も可能です。



チェックを入れると、サブフォルダの構成を保持して変換できます。

MCAD 寸法に対して変換精度が向上しました。

以下の文字制御の形状に対応しました。

可変ボックス、大ボックス、中ボックス、小ボックス、オーバースコア、アンダー  
スコア、ひし形、オーバー・アンダー寸法、バックslash、円弧

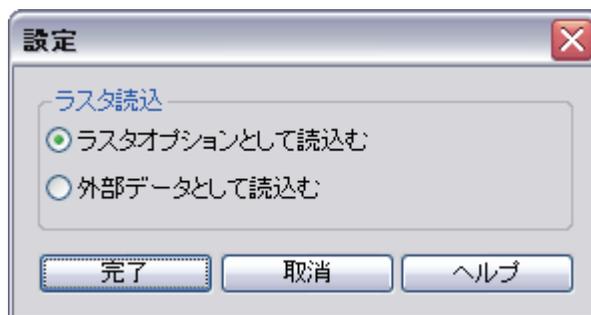
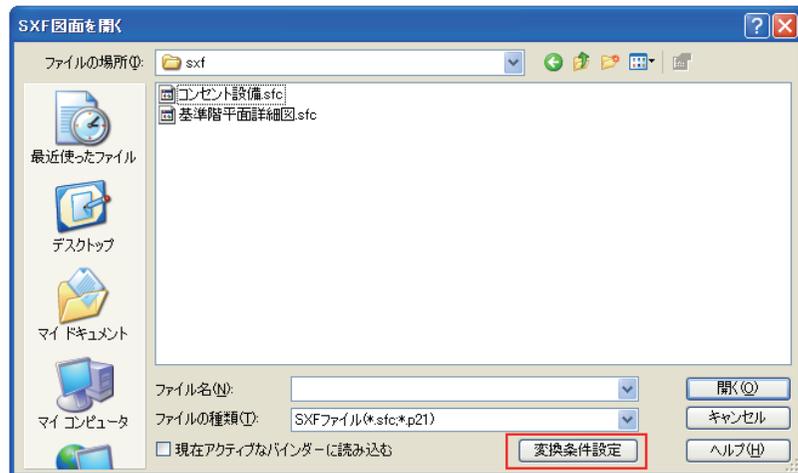
## 2-2

## SXF 入力

変換条件設定ダイアログボックスが追加されました。

[ ファイル / 外部入力 / SXF 入力 ]

SXF データに外部データが貼り付けられている場合、ラスタオプションデータとして読み込むか、外部データとして読み込むかを選択できるようになりました。新しく追加された変換条件設定ダイアログボックスから設定できます。



## 2 - 3

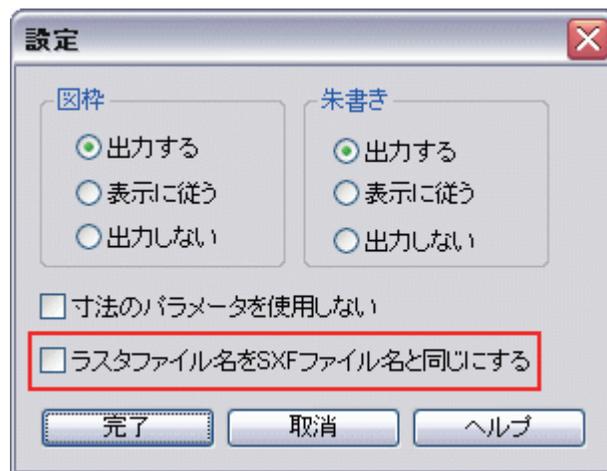
## SXF 出力

外部データが貼り付けられている場合に SXF のラスタとして出力できるようになりました。

[ ファイル / 外部出力 / SXF 出力 ]

外部データが貼り付けられている場合に SXF のラスタとして出力できるようになりました。また、外部データが埋め込みで貼り付けられている場合、ラスタファイル名を SXF ファイル名と同じ名称にすることができます。

機能を有効にするには設定ダイアログボックス「ラスタファイル名を SXF ファイル名と同じにする」にチェックを入れてください。



貼り付けられているデータはモノクロ TIF に限ります。

## 2 - 4

## DXF・DWG 入力

座標を CADCity の第 1 原点（左下）に合わせて入力できるようになりました。

[ ファイル / 外部入力 / DXF・DWG 入力 ]

DXF/DWG データの (0, 0) 座標を CADCity の第 1 原点（左下）に合わせて入力できるようになりました。変換条件設定ダイアログの全般タブに設定項目があります。

座標(0,0)を第1原点に合わせる

## 2 - 5

## DXF・DWG 入出力

AutoCAD2008 に対応しました。

[ ファイル / 外部入出力 / DXF・DWG 入出力 ]

## 2-6

## 出図

出力する際に枚数の指定ができるようになりました。また、透過処理された図形を出図することもできます。

[ ファイル / 出図 ]

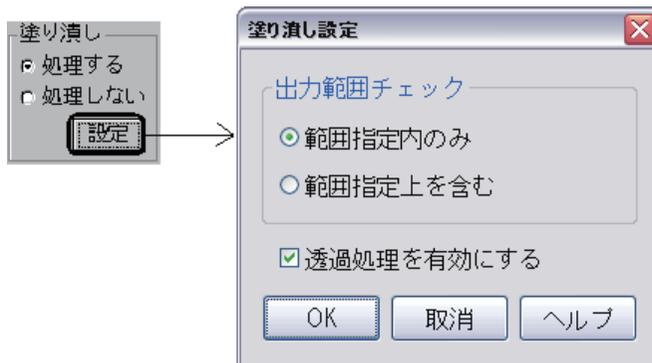
出力する際に枚数の指定ができるようになりました。

※プロッタドライバに IMGPrinter を指定した場合、出力枚数設定による複数出力はできません。



透過処理された図形を出図することもできます。

環境設定から塗りつぶし設定を選択すると開くダイアログボックスに「透過処理を有効にする」チェックボックスがあります。



## 2-7

## 簡易印刷

本コマンドは出図コマンドの簡易操作版になります。

[ ファイル / 簡易印刷 ]

本コマンドは出図コマンドの簡易操作版になります。複雑な設定作業を省略することで、手軽に出図することができるようになりました。  
ドライブと用紙サイズを選択するだけで出図することができます。

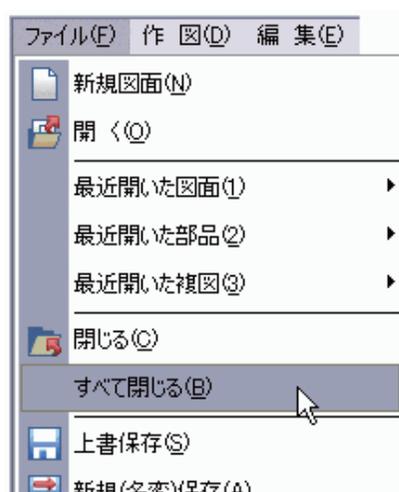


## 2-8

## すべて閉じる

開いている複数の図面を全て閉じることができる新機能です。

[ ファイル / すべて閉じる ]



## 3 - 1

## 枠選択

枠選択条件設定ダイアログのスタイルリストに、ユーザーが定義したスタイルが表示されるようになりました。

[ 編集 / 枠選択の概要 ]



## 3 - 2

## 転送

通常モードと高精度モードが選択可能になりました。

[ 編集 / 複写 / 転送 ]



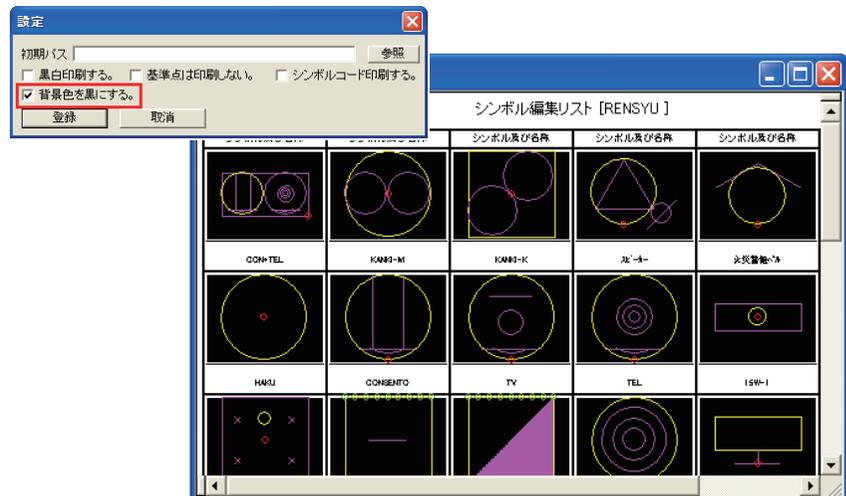
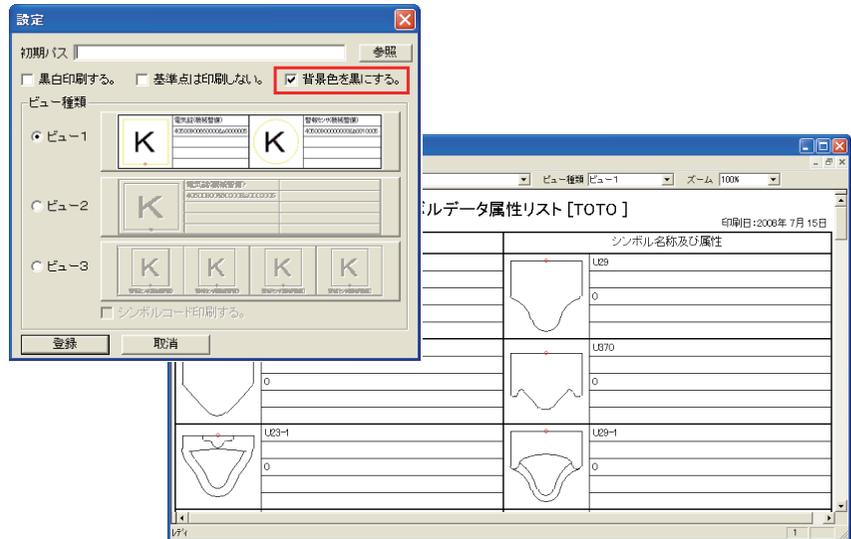
- 1 (通常) はこれまでの転送コマンドです。
- 2 (高精度) は1 (通常) に比べ、円、円弧要素の曲面が滑らかになります。また線幅の表示がより正確になり、加えて線幅に関する細かな設定が可能です。

## 3-3

## シンボルリスト / シンボル編集

フィールドの背景色を黒 / 白に切替える機能を追加しました。

[ 編集 / シンボル処理 / シンボルリスト・シンボル編集 ]

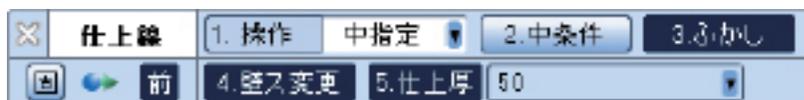


4 - 1

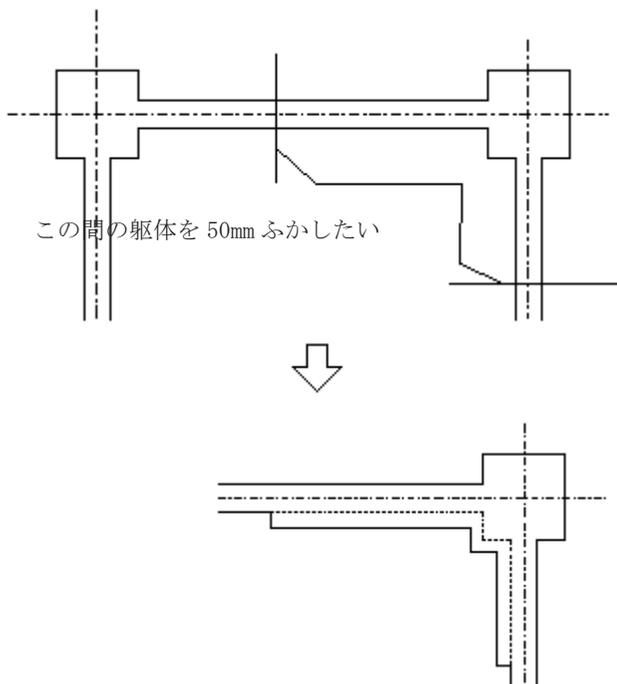
## 仕上線

仕上線にふかし機能を追加しました。

[ 建築 / 仕上処理 / 仕上線 ]



下図のような仕上線（ふかし）の作図が可能になりました。



## 4-2

## ハッチング

線スタイルの設定を拡張し、配置点 OFF 時のみフルラバー表示を可能にしました。

[ 建築 / 仕上処理 / ハッチング ]

線スタイルの設定を拡張し、色、線種、線幅の入力と指定が可能になりました。



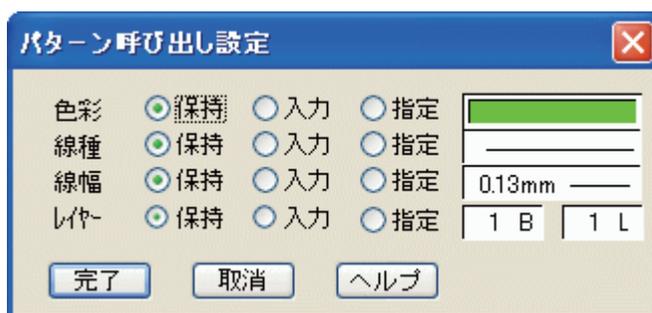
## 4 - 3

## 定型ハッチ

線スタイルの設定を拡張しました。

[ 建築 / 仕上処理 / 定型ハッチ ]

線スタイルの設定を拡張し、色彩、線種、線幅、レイヤーの指定が可能になりました。



## 4 - 4

## 展開図

展開用シンボルがない場合に、ダミーシンボルを読み込むようにしました。

[ 建築 / 展開図 ]

## 5 - 1

## 渡り配線 / 連続配線 / 省略配線

丸め半径のパターンを3種類に増やしました。(1/50、1/100、1/200)

[ 電設 / 配線作図 / 渡り配線・連続配線・省略配線 ]



## 5 - 2

## 立上記号

水平方向の引き出し線作図を可能にしました。

[ 電設 / 配線作図 / 立上記号 ]

## 5 - 3

## 配線スタイル変更

CADCity 電設の配線要素のみを対象として線スタイルを変更するコマンドを追加しました。

[ 電設 / 配線編集 / スタイル変更 ]



[1. 単独]

配線を単独で指定して変更します。

[1. 単独] + [3. 全部]

指定した配線と同じものが全て選択されます。

[2. 枠指定]

指定した配線と同じものを枠で指定します。

[2. 枠指定] + [3. 全部]

枠内、枠上の配線が全て選択されます。

右クリックで完了し、電設スタイルDLBよりスタイルを選択します。



電設スタイルを変更したい場合は、[ 電設 / 電設スタイル ]で行ってください。

## 5 - 4

## 電線管サイズ算出

ケーブルラックの幅を計算可能にしました。

[ 電設 / 電設補助 / サイズ算出 ]

サイズ算出

**ケーブルラックサイズ算出** ×

電線種別	電線管サイズ	仕上外径(D)	本数(n)	計: (D+b)n
1. IV	12	28 mm	0	0 mm
2. IV	12	28 mm	0	0 mm
3. IV	12	28 mm	0	0 mm
4. IV	12	28 mm	0	0 mm
5. IV	12	28 mm	0	0 mm
合計: $\Sigma(D+b)$				0 mm

ケーブルラックの幅:  $W \geq k \{ \Sigma(D+b) + a \}$

余裕率(k): 1.2  
 左右の余裕(a): 60 mm  
 ケーブル間隔(b): 10 mm 標準値

ラック幅計算値:  $K[\Sigma(D+b)+a]$  72 mm  
 ラックサイズ: (W) 200 mm

## 5 - 5

## 照度計算書

オプションではなく標準で使用可能になりました。(LS ではオプション扱いです。)

[ 電設 / 技術計算 / 照度計算書 ]

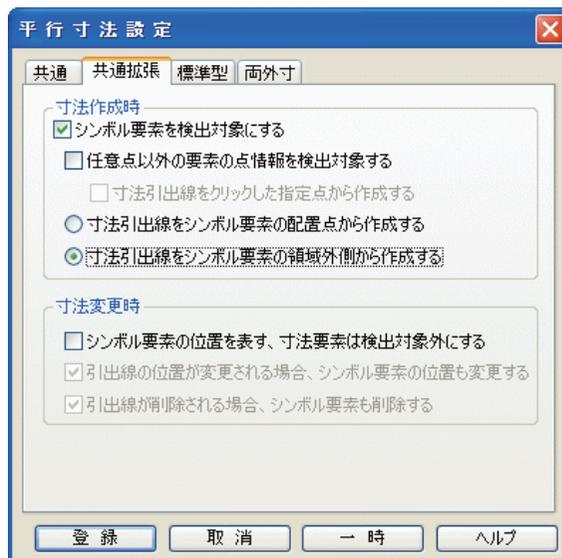
## 6 - 1

## 平行寸法 / 寸法変更

寸法とシンボルをリンクさせる設定を追加しました。

[ 作図 / 寸法 / 平行寸法・寸法変更 ]

寸法作成時にシンボルの配置点を認識したり、寸法変更時、引出線が変更または削除される場合にシンボルも同時に処理することが可能です。



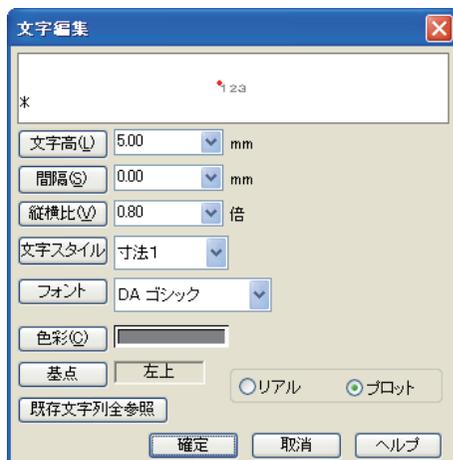
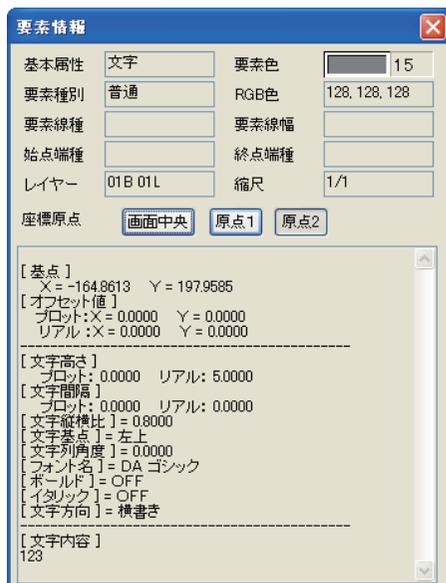
## 6 - 2

## 文字検索

要素属性表示及び属性変更機能を追加しました。

[ 作図 / 文字編集 / 文字検索 ]

検索した文字列の属性を表示及び変更することが可能です。

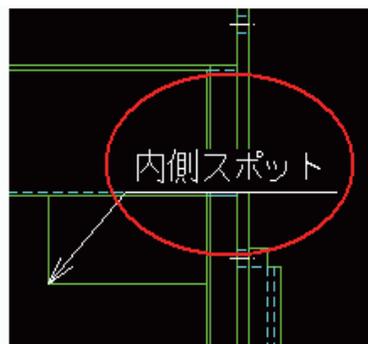
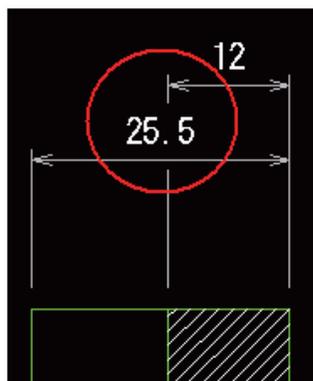


6 - 3

## 文字隠線

寸法文字、注釈系文字にも隠線処理が可能になりました。

[ 作図 / 文字記入 / 文字隠線 ]



## 6 - 4

## 複線

複線に透明度を指定することが可能になりました。

[ 作図 / 定型 / 複線 ]

複線に透明度を指定することが可能になりました。これにより半透明の複線を作図することができます。



## 設定ダイアログ

プレビューを見ながら設定することができます。色、濃度に関する設定ができます。コンボボックスの [▼] を右クリックすると設定ダイアログが開きます。



## 濃度

スライダーによって濃度を指定します。数値ボックスに直接入力することも可能です。入力した数値に連動し、サンプル表示欄の濃度も変化します。



濃度 : 0%



濃度 : 50%



濃度 : 100%

## 7 - 1

## 塗潰図形作成 / 変更 / 塗潰円 / 四角 / 多角

塗潰し図形に透明度を指定することが可能になりました。

[ 補助 / 塗潰し図形 / 作成・変更・塗潰円・四角・多角 ]

塗潰し図形に透明度を指定することが可能になりました。これにより半透明の図形を作図、変更することができます。



## 設定ダイアログ

プレビューを見ながら設定することができます。色、濃度に関する設定ができます。コンボボックスの [▼] を右クリックすると設定ダイアログが開きます。



## 濃度

スライダーによって濃度を指定します。数値ボックスに直接入力することも可能です。入力した数値に連動し、サンプル表示欄の濃度も変化します。



濃度：0%



濃度：50%



濃度：100%

8 - 1

## 技術計算

平成 18 年度版を追加しました。

[ オプション / 技術計算 ]

## 9 - 1

## 削除項目

Ver12.0 で削除された項目をまとめます。

**HDA、HDB、FDA、FDB 形式の保存**

HDA、HDB、FDA、FDB ファイルは、10 年前に Windows 版が作られた時の図面構造体となっており、その後に機能追加された構造を保持することが困難になりました。また今度の機能拡張も踏まえ、Ver12.0 より廃止とさせていただきます。HDA、HDB、FDA、FDB のファイルの読み込みは可能です。また、現在 HDB を主体にデータの管理を行っているお客様は、一括変換による HDC への移行準備をお願いいたします。

## 関連コマンド

上書保存・新規（名変）保存・シート（抽出）保存・バインダー内シート一括・全図一括・シーケンス新規保存・シーケンス上書保存・部品保存・図枠登録

**バインダー**

Ver12.0 よりバインダー管理は「ツールビュー」に統一され、ダイアログボックス機能は廃止となりました。

**外部出力**

Ver12.0 より外部出力で以下の機能が廃止となりました。

Station 出力、JWC 出力、ARC 出力、MPP 出力